

さみしい夜の句会報 第121号・122号

(2023. 6. 11-2023. 6. 25)

◆ 参加者: Take, 水の眠り、西脇祥貴、薫子、輪井ゆう、おかもとかも、元さん、岡村知昭、しまねこくん、しろとも、天やん、小沢史、西沢葉火、森内詩紋、片羽 EIC、雲雀、温(ぬ)、上崎、みさきゆう、maz、菊池洋勝、奥かすみ、短歌初心者、萩原アオイ、何となく短歌、石原とつき、モリマサ公、花野玖、汐田大輝、凧ちひろ、stevia、雲心、はゆき咲くら、Iyutoppa、突波、かのん、まつりべきん、馬勝鴨川ねぎ、雪夜慧星、ほたる、抹茶金魚、Zu san、ひうま、ダリア 220、よち、碧乃、その、MARI934、たろりずむ、ともなう、石川聡、しろとも、Born Slippy(モンモン)、涼閑、流天、蔭一郎、KEIJI、ちゆけ(彩緒、佐竹紫田、雷(らい)、さー、睦月ヨシ、みゆう、とびら、藤井卓、えびたからいち、みんなん、む〜みんなママ、うたたね喋、snuddle、あそみちぎ、黒徳2022、うさぼーる、星野響、crazy lover、maouue、高田月光、Lonaroot、みおつたかふみ、不自見、東(とう)、着流きのお、カゲキ・ちやげぞう、姫川一椽里、こたろう、雪上牡丹餅、上峰子、森砂季、うっかり(俳句とか)、五十嵐創、入竹野乃子、日下 昊、宮坂変哲(どこにでも)下ア、須賀善昭、黒徳、tine、まきあき、rajiri、のんのん、東(とう)、酔名、宮原 凱、歩、鷺沼くぬぎ、月波 与生(一〇五名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

形だけ抵抗をするゼリーかな 佐竹紫田
八階に点るゝのくびじるし 西脇祥貴
を食われてそれから波の無い額 西脇祥貴
調停北子宮のとき中島みゆき 西脇祥貴
凧はなぜイカと呼ばれなかったのか 宮坂変哲
青パイヤだろう夏至に形をあたえれば 石川聡

チャンネルをまわすタイプの霊能者 たろりずむ
迷つたら赤いトマトを投げなさい しまねこくん
ハンカチで包み密室仕上げけり しまねこくん
独りで乳首揉む蛇の脱け殻 ダリア 220
月曜とトマトが嫌いピザは好き 馬勝
感情のないピーマンを食べる気だ 森砂季
ゴミ箱にブロックされているらしい 西沢葉火
紫陽花の小数点はアブラムシ こたろう
日経平均と魂の横ばい Ryu_sen
恋文の添削待ちの天気雨 岡村知昭
耳たぶに秘密が揺れて初夏の風 東こころ
後悔の単位としての「kg」 上崎
明け方の国営さよなら公園 上崎
泣くのなら縁もゆかりも無い道で
黒南風とハエトリグモはMINON式 石川聡
アルトの声で森にいる 西沢葉火
雨の日は安倍晴明の卦に頼る いずみ
地図帳の中にだけある右心房 まつりぺきん
天使また飛び立つ夏至の交差点 ひうま
百円でガチャが回せた頃の夏至 しまねこくん
探偵の尾行に気づくかたつむり 蔭一郎
盛岡な文フリ夜の句会知る モリマサ公
あこがれのソナタが響く整骨院 上崎
夏至の夜の燕はいまだ始発駅 上崎
ねえスピカ停車場の靴底は畝 ひうま
friendの最後にsを消した跡 たろりずむ
friendの中にrienとendかな たろりずむ
鉄分を与え黒ずむキティちゃん 石川聡
温度差を感じてぬるい缶ビール ほたる
立ち位置を知らせる二百の既読無視 ほたる
妹の食べない葱の臭ひかな 菊池洋勝

五月雨で測る土下座のタイミング しまねこくん
天気図の波紋にふれて独り言 上崎
犬以外皆アマゾンに縁がある おかもとかも
短夜やふあうる・ふらいの恋でした hyuitoppa
来客に母が居間から山羊を呼ぶ 抹茶金魚
美肌かなオツムテンテンゆで玉子 睦月ヨシ
別人かおもたわてんびん座かいな のんのん

夏草やあらゆる隙間我がものに 水の眠り
ひとつぶの秘密を含み軋む顎 輪井ゆう
触れもせずハエトリソウの夜は更ける しろとも
夏の夜や銃後のライトに向く銃口 天やん
だらしなく凌霄花に吸われてる 小沢史
夏だった、砂糖いつばいの麦茶と 片羽雲雀
ビー玉の口移しの平行線の発酵なオルゴール 石原とつき
読点の先は空白沖繩忌 花野玖
梅雨暑しマチスの舌を紅く塗る 汐田大輝
杜若そろりあたしの出番かな syusyū
醒めぬ夢白き四葩や夏至の昼 雲心
通学路 花梶子と あかい顔 かのん
くま蟬の幻聴今はあずまびと 雪夜替星
淋しさの募る夜更けのワイン赤 涼閑
荷おろしの喫水線の夕泊 流天
問題がなかった事のない眼の裏 雷
夏至を呼ぶカン・パネルラ母の声 さー
母無言しばし菖蒲の展開図 藤井皐
滴りて頬をぬぐう手桜桃忌 みんみん
路地裏の猫 二度振り返り うたたね凧
ジレンマのままに徘徊かたつむり あをみさき
銀杏が私の口で熟れている 黒穂 2022
掛け声に神輿掲げる夏祭 とるばどーる

足に牡丹が咲いた女と梅雨の花 不自見
ジャイアンフェステイバル山の大噴火 雪上牡丹餅
グーパンのめり込み方や旱空 着流きるお
皿洗い 皆が帰りし 宴の夜 カゲキ・ちやけぞう
眠らない音それは命の臭い 上峰子

コーラが熱い うっかり

楽園の手前を左折虫狩り 入竹野乃子

魂のように朽草飛び交い短夜の儚さ 日下 昊

青葉寒イコカで粉のミルク買い 須賀 善昭

透明な薔薇から赤い血が流れ 黒穂+

黄金のトマトはイーハトーヴ産 MEASOEH

演技したキミは枯れゆく薔薇だろう naJini

この身にも狭霧を纏う多段滝 星野響

月を愛でる暇もなくみたいと思うと曇り空 crazy lover

絵の中の老婆が少しづつ狂う 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

もう少しこうして欲しいと言えなくて鏡の中のこけしを見
てる みさきゆう

頼むから誰か注釈つけてくれ「この人生はフィクションで
す。」と 短歌初心者

来世でも会いたい人寝る前に数えてほろり、途方に暮れる
薫子

ちぎれ雲この街に来た遠くから空に浮かんで見上げてる夏
元さん

新しいデザートになるはずだったバタフライピーに染まる
ちくわぶ 森内詩紋

ダンゴムシ丁寧に水に沈めてく手のひらで待つやさしい死
刑 萩原アオイ

走行中癩癩起こし自転車の前カゴ立って脱走娘 凧ちひろ
いつからか春のにおい夏となるも我あるために羽ならべて
く はゆき咲くら

歯にしみるアイスにあえて挑む時大人は何かと戦っている
奥 かすみ

彼人に揺蕩ふ恋の重さ故持ちて忍ぶる日日の憂き哉 ぱさ
眠られぬ夜は真白き水中花のかそけき息吹に寄り添つてゐ
る 碧乃 そら

空の果て届く光は遅れども今宵も覷ずる雨蛙 AFRI934
前よりも少し苦いのコーヒーが雨窓伝う深夜のダイナー
アルト

前よりも少しもうまくななくてうたがどんどん下手にな
つてく KBI:ib

鼻歌と寝言の区別もつかないで寝子は世界をまあるく閉じ
る ちゆけ(彩緒)

慕はしき方を思ふに深更のみちかき今宵は相応しからじ
何となく短歌

ひねくれた 欲望抱え溜め込んで はげ口求め ネットさま
よう とびら

誰の手も借りずに遂げた結果より周りの力を取り込むプロ
セス えびたからいち

私の差し延べた手を取る人を求める夜の寂しさの果て ぱ
さ

神戸発イタリア行きの船に乗り揺られて行きたいな むく
みんママ

紫陽花に集う雨滴が惑星の孤独にみえて人生 snuddle
満月の夜けだものになるというあなたの爪にやすりをかけ
る 高田月光

あの昼の暑さを思い出せない酔いの宵のよいよいの肌寒さ
Longroof

外国の人の背中とおしやべりなおばちゃん二人組 はさま
れた みおうたかふみ

苦しみも痛み悩みも忘れられる、そんな愛が今は必要 姫

川一桜里

変化することのやまない人の世で変わらぬものを抱きしめ
ている 五十嵐創

ニンゲンのようなそぶりで生きている 滴る血は凶らずも、

赤 mine

ほんとうに寂しく思うのはテキーラを1人で飲む今より
人という時 酔名

◆詩

夕散歩

生暖かい風に包まれる。

鳥達も

家に帰る支度。

子ども達も楽しそうに走って帰る。

どこからか 焼き魚 煮物

色とりどりの 幸せな匂い。

『こはんだよ』

そんな声が聴こえた気がする夕暮れ。(温(き))

本当に私はあの人のことを恨んでいないと言えるのだろうか
か：傷つき、傷つけられ、それでも支えてくれた人。感謝
こそすれ、恨むだなんてもつてのほか。でも傷ついてしま
った私の気持ちはまだ底に眠っている。出会わなければよ
かった、でも出会わなければ今の私はなかった。(みゆう)

◆作品評から

調停井子宮のとき中島みゆき 西脇祥貴

～出た！ニアリーイコール！（石川聡）

明け方の国営きよなら公園 上崎

～ちよつといま似たような句をやったのでびびりました。公開したら「似てねえよ！！！」って言われるかもしれませんけど。

国営っぽい名前ですね……こう、景をぼん、と置いてかれるのが上崎さんはうまいと思いました。（西脇祥貴）

friendの中にrienとendかな たろりずむ

～句の本筋からは離れちゃうけど、中学校の時英語の先生が「friendの中にはrがあります。書き忘れないようにね。友達の中には愛がある、で覚えましょう」って教えてくれたの思い出した。（歩）

地図帳の中にだけある右心房 まつりぺきん

～道路が張り巡らされている様子は血管のようですね。バイパスって言葉も道路にも心臓にも使われるなあと思いました。それをひとひねりして、右心房だけを地図帳に移動させる所が面白いですね。この地図帳、ドクンドクンと脈をうって少し怖いです。（森砂季）

～右心房は全身を巡って酸素が少なくなった血を受け入れ、新しく酸素を吹き込むのが役割。だとすると、地図帳にある右心房は、疲れた人が戻りそして旅立つ故郷のようなものか。でも、そんな優しい場所は何処にもないのだ。探しても、求めても、それは「地図帳の中にだけ」存在する。（徳道かつみ）

ハンカチで包み密室仕上げけり しまねこくん

〜一つ前のお句も閉じ込める系ですね。ハンカチの密室
の自身は夏薊なんか良いかな。(鷺沼くぬぎ)

電卓よ電卓この恋をたたくぞ 石川聡

〜理路整然としている。作者はしつかり者なのだろう。
カシオとシャープではの位置が違う。カシオはテンキ
ーの隣にあるので誤って押すことがある。うっかり者はシ
ャープがいい。(月波与生)

うじやうじやが家系が切手をなりすますそこから砂丘 石
原とつき

〜石川さんとは対照的な句。何度か読むと雑然として言
葉に独自のリズムがあることを知る。巧妙に選んである言
葉たち。(月波与生)

しやつくりが止 まらなくつてぬるい風 上崎

〜「ぬるい風」で止まったような。(月波与生)

起きてすぐ珈琲を淹れてこぼしてハチャトウリアン

SYUSYU

〜これはもう「ハチャトウリアン」を見つけたモン勝ち。

〈クリストファーと名付けたくなる朝がある 魚澄秋来〉
のように愛されてほしい。(月波与生)

「ツイートをさらに表示」をタップして雨が降ったり止ん
だりを知る 蔭一郎

〜タップまで知りたい情報もささないけどこの雨が止
むかは気になる。タップしてしあわせに生きて行くため
には不必要な知識がまた増える。(月波与生)

聞こえない母に聞こえる四葩かな 菊池洋勝

く聞こえないはずの母が聞いた花弁が開く音。母はいかにも的な感じなので他の表現もあつたのでは。四葩とは紫陽花のこと。(月波与生)